

趣旨説明

(公財) 佐倉緑の基金 代表理事
原慶太郎 hara@rsch.tuis.ac.jp

第5次佐倉市総合計画中期基本計画

(令和6～9年度)



～基本構想～

笑顔輝き 佐倉 咲く
みんなで創ろう「健康・安心・未来都市」

(参考)

これまでの 総合計画における 将来都市像	
第1次佐倉市総合計画（昭和 49～58 年度）	印旛地区の核となる豊かな文化教育都市
第2次佐倉市総合計画（昭和 59～平成 12 年度）	活力ある文化都市
第3次佐倉市総合計画（平成 13～22 年度）	歴史 自然 文化のまち
第4次佐倉市総合計画（平成 23～31 年度）	歴史 自然 文化のまち ～「佐倉」への思いをかたちに～

第5次佐倉市総合計画中期基本計画 (令和6～9年度)

(2) 「住み続けたい(住みたい)と思うまち」の要素として挙げた項目の満足度

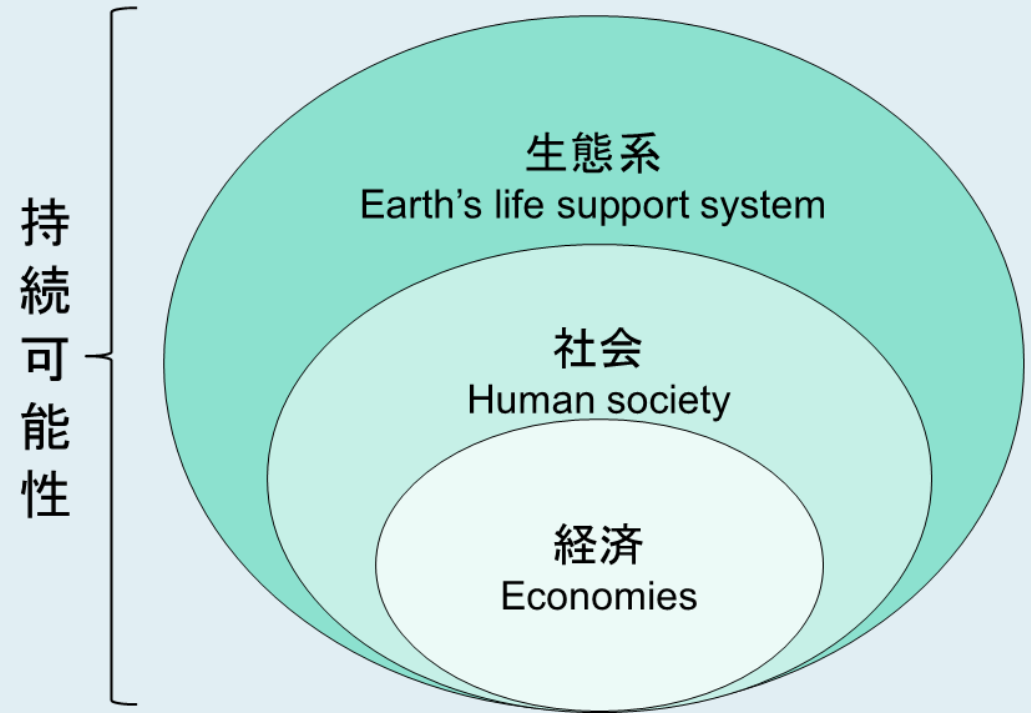
中期基本計画策定にあたってのアンケート調査の、「住み続けたい(住みたい)と思うまち」の要素として挙げた18項目のうち、満足度が高い項目としては、「自然環境が豊かな地域であること」、「文化や歴史ある街並みがあること」、「安心・安全な生活の確保」、「音楽ホールや美術館等の文化・教養施設の充実」、満足度が低い項目としては「お洒落な店が充実している」、「魅力ある仕事があること」、「通勤や通学等における距離が近いこと」、「公共交通機関の利便性が良い」となっています。

項 目		合計 (割合)	年代別					
			20代	30代	40代	50代	60代	70代～
お洒落な店が充実している	満足	107 (31%)	10	32	25	19	6	15
	不満	233 (69%)	11	58	59	62	21	22
公共交通機関の利便性が良い	満足	163 (48%)	15	47	36	34	14	17
	不満	178 (52%)	6	44	48	47	13	20
文化や歴史ある街並みがあること	満足	290 (85%)	20	78	70	69	22	31
	不満	50 (15%)	1	12	14	12	5	6
自然環境が豊かな地域であること	満足	317 (93%)	20	85	77	76	25	34
	不満	24 (7%)	1	6	7	5	2	3

経済・社会・自然の包含関係

経済的な持続可能性は社会的な持続可能性に支えられ、
社会的な持続可能性は生態系の持続可能性、すなわち、自然環境と人間の良好な関係があって初めて確保することができる

(Fischer et al. 2007; 鷺谷 2010)



Fischer et al. (2007)

21世紀のわたしたちの課題

地球規模の課題

地域の課題

地球環境問題 極端気候

人口減少・超高齢社会

災害多発

持続可能性

サステナビリティ

回復性

レジリエンス

地球規模で考えて 足元から行動しよう

Think globally, act locally

Think globally
地球規模で考える

UNCED 地球サミット

Rio de Janeiro, Brazil

国連環境開発会議

リオデジャネイロ, ブラジル

3-14 June 1992



持続可能な開発(発展) Sustainable Development
将来の世代の欲求を満たしつつ, 現在の世代の欲求も
満足させるような開発

国連環境開発会議 ブラジル・リオデジャネイロ 1992

1992年 国連環境開発会議 (UNCED)

持続可能な発展 Sustainable Development

「気候変動枠組条約」

COP30

Belém, Brazil

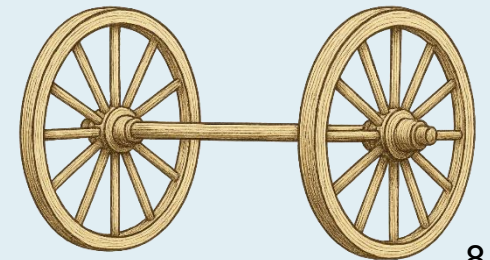
「生物多様性条約」

COP16

Cali, Colombia

この二つの条約の大きな目的

→ サステナビリティ (持続可能性)
地球温暖化対策と生物多様性保全



COP15 中国 昆明 & カナダ モントリオール

生物多様性条約 第15回締約国会議

11-15 October 2021, 7-19 December 2022



<https://www.clientearth.org/latest/latest-updates/news/what-s-happening-at-cop15/>

https://www.cbd.int/article/cop15-cbd-press-release-final-19dec2022?fbclid=IwAR0dPeTZ_BlveJXn3Ti1Orav65TG1Ffqqffws6-T48W7sAbwb6XjVHzmWDU8

ネイチャーポジティブ (Nature Positive)

“Halt and Reverse Nature Loss by 2030”

【定義】

「2020年を基準として、2030年までに自然の損失を食い止め、反転させ、2050年までに完全な回復を達成する」という世界的な社会目標

「自然再興」 という日本語訳

Act locally

足元から行動しよう

佐倉市畔田谷津の自然再生 2007年～



2004/01/01



2021/04/07

畔田谷津ワークショップ（市と市民協働） 2007～



2007年（延べ441人）

2008年

2013年

美濃和信孝氏FB

2025年9月16日

令和7年度 環境省 自然共生サイト 認定

畔田谷津下流域（佐倉里山自然公園）

畔田谷ワークショップ活動計画



佐倉市の取組

第2次佐倉市環境基本計画 2020-2032

みどりの基本計画 2023

気候変動対策 緩和&適応

第2次佐倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編） 2018-2030

ゼロカーボンシティ宣言 2021

気候変動適応センター 設立 2024

生物多様性保全・活用

第2次谷津環境保全指針 2022

里山大学開校 2024

ネイチャーポジティブ宣言 2026

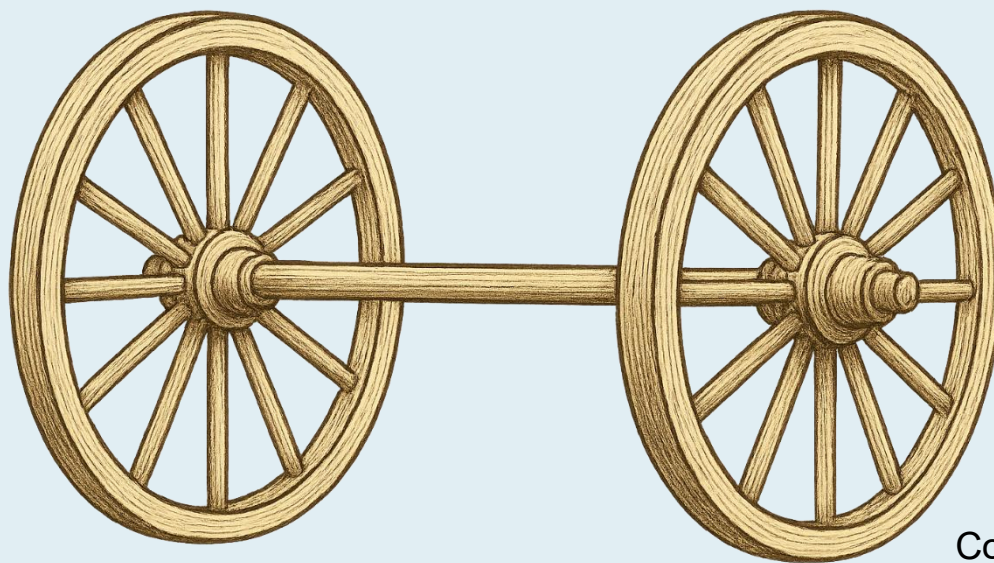
持続可能性に必須な車の両輪

気候変動対策

ゼロカーボンシティ宣言

生物多様性保全

ネイチャーポジティブ宣言



Copilot generated

『私たちのサステイナビリティ』（工藤 2022）



sustain (v): 下から支える・支え続ける

sustainability (n): 下から支えて維持する能力
一方で 日本語の

持続可能性：物事がある状態でそのまま続いていくこと、また続いていける見込

サステイナビリティ

⇒ **まもり・つくり・次世代につなげる**

生物多様性シンポジウム

～自然を次世代につなぎ まちを次世代につなぐ～

ネイチャーポジティブ宣言

基調講演

「佐倉から広がるネイチャーポジティブ
～自然とともに 人とまちが豊かになる未来～」

国立環境研究所 気候変動適応センター

西廣 淳 氏



畔田谷津ワークショップ 取組事例報告